

「過去が現在を助けることができるのか」

宣教研究所所長 朴 思郁 (西川口教会 牧師)

韓国のノーベル文学賞作家、韓江 (ハン・ガン) はノーベル賞受賞スピーチで、自身の小説創作の根底にある問い「過去が現在を助けることができるのか」について語りました。この深遠な問いかけは、私たち一人一人の人生、そして教会の歩みを考える上で豊かな示唆を与えてくれます。過去を振り返ることは単なる懐古ではなく、そこに秘められた教訓を見出し、現在と未来への道標を探る営みなのです。

1947 年の連盟創立以降、私たちの諸教会・伝道所は内部からの成長だけでなく、政治、経済、社会、文化といった外部環境との相互作用の中で形づくられてきました。例えば、米国南部バプテスト連盟 (SBC) からの支援を受けていた時期には、多くの教会がその資源を活用して地域社会での活動を広げ、宣教の礎を築きました。しかし、この外部依存は一時的なものでした。時を経て、教会は財政的自立への歩を進めると同時に、独自の神学的・宣教的アイデンティティを確立していったのです。

かつて教会は文化的・福祉的な社会の中核として、多くの人々の心の拠り所となっていました。しかし、その繁栄は特定の時代背景と社会条件に支えられていたことを認識する必要があります。現代において、過去の成功モデルをそのまま踏襲することは適切とは言えないでしょう。今日の教会に求められているのは、過去の叡智を継承しながら、変容する社会の中で新たな挑戦に応じていく姿勢です。経済的困窮や社会的分断が深まる現代において、いかにして福音のメッセージを人々の心に届けることができるのか。それには、時代の変化を冷静に見据え、時代に適した福音宣教のあり方を模索する知恵と勇気が求められます。

「過去が現在を助けることができる」という可能性は、過去を美化するのではなく、その真実を直視し、そこから学びを得るときにこそ開かれます。教会の使命は過去の栄光に執着したり、現状に悲観したりすることではありません。これまでの経験を、未来への確かな一歩として活かすことにあるのです。社会環境は刻々と変化しますが、神の福音は永遠の真理として私たちと共にあります。この揺るぎない基盤に立ちながら、教会は時代に即した新しい歩みを続けていくべきでしょう。変化を恐れるのではなく、それを成長と成熟の機会として捉え、現代社会において神の愛と正義を体現し続ける教会。そこにこそ、「過去が現在を助けることができるのか」という問いへの答えが見出せるのではないのでしょうか。



2025年1月末現在 神学校献金・会費の納入状況と、納入促進・期限内納入のお願い

地方連合名	神学校献金					連合会費				
	2025/1実績		前年同月		対前年額	2025/1実績		前年同月		対前年額
	金額	教会	金額	教会		金額	教会数	金額	教会	
北海道	273,021	10	440,022	10	-167,001	58,000	6	36,000	4	22,000
東北	330,848	12	353,461	13	-22,613	68,000	6	108,000	10	-40,000
北関東	739,911	11	534,485	9	205,426	92,000	5	94,000	7	-2,000
東京	1,886,529	25	2,028,867	24	-142,338	320,000	16	324,000	12	-4,000
神奈川	871,345	12	783,630	11	87,715	191,000	10	142,000	6	49,000
西関東	348,260	7	318,084	6	30,176	61,000	5	32,000	3	29,000
中部	410,010	9	601,517	11	-191,507	101,000	8	156,000	13	-55,000
関西	601,499	18	505,556	15	95,943	74,500	8	74,000	6	500
中四国	760,400	18	867,020	18	-106,620	84,000	9	94,000	10	-10,000
北九州	424,910	14	344,000	11	80,910	28,000	5	60,000	4	-32,000
福岡	1,211,646	22	1,250,784	23	-39,138	216,000	13	158,000	11	58,000
西九州	526,604	9	388,270	9	138,334	52,000	4	38,000	3	14,000
南九州	441,000	14	389,400	13	51,600	98,000	12	88,000	10	10,000
地方連合合計	8,825,983	181	8,805,096	173	20,887	1,443,500	107	1,404,000	99	39,500
個人団体等	337,015	0	322,622	0	14,393	-	-	-	-	-
総計	9,162,998	181	9,127,718	173	35,280	1,443,500	107	1,404,000	99	39,500

◎1月末現在、教会・伝道所の地方連合合計は前年比で神学校献金は+20,887円(100.2%)です。

連合会費は、前年比+39,500円。教会数では、+8。会費納入人数は+20名です。

尚、期末に当たり、3月31日までに「ゆうちょ銀行」の所定口座に振り込まれたものを計上することとなります。期限の厳守にもご協力いただきたく、あわせてお願い申し上げます。

「召命の証し」

高木 康俊（蓮根教会 主任牧師）

高校生の時、熊本県阿蘇郡高森町にあります高森キリスト教会を開拓されたユーレラ・スポア宣教師と前原澄子宣教師が熊本県菊池市に伝道される中で、その菊池の伝道所で伝道されていた坂本トモ子宣教師に導かれ、菊池の教会や高森キリスト教会に通いながら、スポア先生や前原先生の薫陶を受けてキリスト信仰に招かれ、高校3年の時に、スポア宣教師によって洗礼バプテスマを受けました。



その後、東京の大学に進学し卒業後、東京地方検察庁で検察事務官として仕事していた時、菊池の教会や高森の教会に通い阿蘇のキャンプで救われた妻と出会い、鹿本キリスト教会で結婚式を挙げさせていただきました。

結婚後は、私たち夫婦は、千葉県の松戸市の栗ヶ沢教会で3年、熊本市の東熊本キリスト教会で3年の信仰生活を過ごしました。その熊本時代に、妻は、二人目の子供を宿していることに気づかぬまま、検診で大量の放射線を浴び、産婦人科の医師より、重大な障がいを持って生まれる可能性が大きいので中絶することを強く勧められました。しかし、私たち夫婦は、それからの数カ月を共に祈り続けた結果、病や死の恐怖や不安から解放されましたので、どんな不自由な体を持って生まれる子供であっても、主から与えられた命の尊厳を大切に産むことを決断しました。やがて、長男は、主の恵みの中ですべて守られて生まれて来ました。しかし、この出来事を通して、死や病の恐れからの解放を与えてくださる主の十字架の福音を宣べ伝えるために献身する召命が、私に与えられたのです。

その後、仕事を退官し神学校に入学、その献身生活の中で吃音（どもり）も奇跡的にいやされ、数年後には、茨城県の日立市で牧師として開拓伝道にお仕えしました。主が与えられた召命のとおり、伝道牧会の中で多くの病や死の不安の重荷を負わされた方々と出会うことができました。多くの方々が信仰に導かれましたが、私も若く未熟な伝道者でしたので、様々な重荷に押しつぶされそうになり、伝道牧会を継続することが困難な状況に陥りました。

ちょうどその時、主は、牧師館で妻と共に祈る私に、「わたしは生きている。」との主の御言葉を、明確に私の心にも与え、主の御声を聞かせてくださったのです。この主の臨在の御言葉体験は、私にとって、その後の死と病の不安に苦しむ方々に伝道する際の大きな支えとなったのです。「主は生きておられる」ことを御言葉によって体験することこそ、大切な「死」への備えであることを、この時、知らされました。

その後、3年間の開拓伝道を終え、東京の目白ヶ丘教会で6年、板橋区にあります蓮根バプテスト教会で29年の牧会伝道に導かれました。私が赴任した頃の蓮根教会は、病床の方やそのご家族が中心で、集まる人もまだ多くはなく、教会の奉仕を担う働き手が足りない状況でした。しかし、主は、この病床にある方々で満ちる蓮根の教会での伝道牧会で、困難の中でこそ与えられる平安と希望に満ちた『死』への備えを体験させていただいたのです。

死の現実を体験して来た視点から見ます時に、平穏に見える死であっても、その死に対峙した時に来る死の恐怖と不安は同じであると言えます。周りから見て平穏に見える死も、苦しうに見える死も、死ぬという不安は同じにあります。究極的に、死の向こうにある永遠の命、復活の希望を知らない限り、死の不安と恐れから真に解放されることはないのです。そして、永遠の命とは、救い主イエスを信じ、主の御霊を受けて救われ、神の永遠に至る祝福を頂くことです。この主イエス・キリストの十字架の贖いによって与えられる永遠の命と復活の信仰に生きることによりのみ、死の恐れから解放され、死に勝利することができるのです。

90歳を過ぎた一人の壮年が数年前に平安の中で天に召されていかれました。数年前に息子さんの死と奥様の死という出来事を体験して以来、「死」への備えを求めて来られました。そして、ご自身の死が近づいてきたとき時、その「死」の向こうに見える永遠の命と復活の希望とこれから来るであろう「死」に備える自分と共に「主がおられる」と言う平安が与えられたのです。わたしたちの蓮根教会におられる多くの兄弟姉妹が、同じように、十字架のあがないの癒しと復活の希望と平安の中に、毎日主イエス様と共に喜び感謝しつつ歩んでおられます。

「献身の証し」

東京バプテスト神学生専攻科
遠藤 守 (鮫バプテスト教会)



私は20数年前に子どもたちが教会学校に通うようになったことをきっかけとして教会と関係を持ち、バプテスマを受けて教会員となりました。神学校に入学した動機は、話をただ受け身で聞くだけでなく、キリスト教の深淵をもっと学んでみたいという知的な好奇心が第一にありました。入学前、2019年度西南学院大学始業礼拝での須藤伊知郎神学部長の言葉に心を動かされました。

「この学びは、目先の効率や利益にすぐに結びつくことはありません。しかし、あなたが長い人生を生きてゆく中で、その岐路に立たされたとき、問いを立て、筋道を立てて考え、決断をする、ブレない軸を持つことができるでしょう。」

神学校で学び始めて約5年、経済的利益には結びつかない学びであっても、効率や競争とは無縁の純粋な授業の場で、先生や受講生の言葉を尊重して聞き、自分の中で考えをまとめ言語化するといういねいな行為は日々本当に豊かで、多くのものを自分にもたらしてくれたと実感しています。

学びの中では、ヘブル語やギリシャ語など私にとって苦戦する講義も少なくありませんでした。ほかの人がすらすらと質問に答えているのに、自分だけは皆目見当がつかない、頭は白紙の状態という、数十年前に中学校で体験した、ついていけない恐怖感をもリアルに体感することができました。

それでも歌にのせて覚えたヘブル語24文字のアルファベットはきちんと記憶にありますし、今後も学びを継続しようという意欲も自分の中に存在し続けています。卒業のない学びはこれからも続くと思います。

神学校入学の第二の動機は、長く無牧師の状態が続いている所属教会においてその存続のために力になれるのではないかとこの思いです。牧師を招聘したくても経済的に難しいという状況を、自分が教役者になることで改善できるのではないかと考えました。

先日所属教会から牧師招聘状をいただきました。果たして自分に務まるだろうかという思いは常にありますが、「お前がやるのではなく、私がすべてを整えるのだ。」という主なる神様の声が聞こえる気がします。

神学校で学んだことを基本として、今後もさらに研鑽を積んでいく所存です。

<奨学金委員会報告>

奨学金委員会 委員長 北村 慎二

■ 奨学金申請者及び奨学金受給者との面談

2024年11月2日(土)西南学院で奨学金申請者等との面談を行いました。5名の方との面談を行い、申請内容の確認のほか、学生生活や奨学金等について意見交換を行いました。その後、西南学院神学部教授との懇談の時を持ち、有意義な交わりができました。

■ 第2回奨学金委員会

2024年12月14日(土)オンラインにて2024年度第2回奨学金委員会を開催しました。

全国壮年会連合報告(高良会長)、中間監査結果報告(堤・大城戸監査)、奨学金返還・会計報告(飯野事務局)、西南学院神学部報告(才藤神学部長)、奨学金申請者及び奨学金受給者面談報告等の報告の後、2024年度奨学金追加申請、2025年度奨学金申請の審査を行いました。また学費改定に伴う1種奨学金額の変更、寮費改定に伴う2種奨学金額の変更について審議し、承認されました。奨学金受給者の近況報告をもとに、奨学金受給者の近況についての確認がなされました。

■ 第3回奨学金委員会

2025年1月25日(土)オンラインにて2024年度第3回奨学金委員会を開催しました。

各報告の後、2024年度奨学金給貸与見込額、2025年度奨学金給貸与予定額、2026年度奨学金申請様式(一部改変)についての確認がなされました。また理事会の特別認定についての協議、2025年度の奨学金委員担務についての協議がなされました。

<全国壮年会連合 臨時役員会報告 (12/14 オンライン) >

全国壮年会連合臨時役員会は2024年12月14日にオンラインで開催されました。以下の報告および協議事項が取り上げられました。

■ 報告事項

1. 全国壮年大会・総会の報告書が送付され、大会会計報告の修正がありました。
2. 神学校献金・会費一覧表の報告では、前年同期比で献金と会費がそれぞれ減少していることが報告されました。
3. ジェンダーレスに関する検討委員会の結論として、性別にこだわらない組織作りの提案がされました。
4. 役員候補者選考委員会にて、副会長候補者が挙げられました。
5. 第2回奨学金委員会の報告では、来年度の奨学金支給対象学生の報告と各種料金の値上げが報告されました。
6. 高良会長の所属教会の推薦により連盟財政委員への立候補について報告がありました。

■ 協議事項

1. 今年度の支出確定に向けた決算見込みが報告され、オンライン会議の増加が提案されました。
2. 東京地方壮年連合への活動支援金補助が承認されました。
3. ホームページ改定案について、特定のメンバー向け部分のみとすることが決定されました。
4. 伝道隊派遣については次回に持ち越されました。
5. 来年度の主な行事日程が了承されました。
6. 慶弔規程の策定については時期尚早と判断されました。
7. 今後の活動計画案と来年度予算案の基本的な考え方が報告されました。

<神学校献金と全国壮年会連合会費納入のお願い>

全国壮年会連合役員会

1月末の段階で神学校献金は、9,162,998円となり、対前年同期比で35,200円のアップですが、目標2500万円に対して、かなり下回っています。神学校献金は、東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校への運営資金の援助に2025年度より、総額350万円を援助することになりましたので、よろしくお願ひいたします。

また、全国壮年会連合会費は、1,443,500円となり、対前年同期比で39,000円のアップですが、目標の予算の250万円に対して、かなり下回っています。

皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

<全国壮年会連合関連の予定>

- 2月15日(土) 全国壮年会連合役員会 (オンライン)
- 2月20日(木) 全国壮年会連合ニュース135号発行予定
- 2月28日(金) 新任牧師・主事研修会 (対面) 高良会長出席
- 3月1日(土) 全国壮年会連合役員会・奨学金委員会合同会 (対面)
- 3月7日(金)~8日(土) 神学校入学前研修会 (オンライン) 高良会長出席
- 3月15日(土) エマオ通信No.7発信
- 4月11日(金) 定期監査 (対面)
- 4月12日(土) 全国壮年会連合役員会 (オンライン)
- 4月15日(火) エマオ通信発信No.8発信
- 4月19日(土) 全国壮年会連合役員会・奨学金委員会合同会 (対面)
- 4月21日(月) 全国壮年会連合ニュース136号発行予定

全国壮年会連合 会長：高良 研一(恵泉)、副会長・事務局長：稲川 仁(宝塚)
書記：木村 均(大井)、会計：高井 透(高崎)
監査：堤 秀幸(福岡西部)、大城戸 一彦(所沢)

同奨学金委員会 委員長：北村 慎二(宝塚)、総務：浦瀬 佑司(札幌)、会計：田口 清吾(平針)
(3月末まで) 返還：鶴澤 寛(鳥栖)、渉外：古田 晴彦(宝塚)
連盟担当理事：武林 真智子(飯能)、神学部長：才藤 千津子(平尾)

事務局 飯野 實(宮原)



<前号のお詫び>

前号(134号)の見開き方向が
変わっていました。大変申し訳ござい
ませんでした。(編集)

神学校献金・会費 振替 00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局